

日本女性学会 2023年度少額研究活動支援 報告用紙

提出期限 6月30日

提出年月日 2024年 9月16日

名前	大森駿之介
所属・立場	東北大学文学研究科博士後期3年 (日本学術振興会特別研究員(2024年-25年度)DC2)
支給を受けた研究活動	地方地域社会における性的マイノリティの社会学的研究—アイデンティティ管理と社会関係の形成
研究活動の実施状況	<p>本研究の目的は、地域社会内での可視性が顕著な性的マイノリティを取り上げ、かれらがいかにして、性的マイノリティとして「可視的になる」のを選んでいる(あるいは選んでいない)のか、またその際自身の性的アイデンティティを管理しつつ、地域社会でいかなる人間関係を作り上げていくのか、その可能性と課題を探ることである。</p> <p>本研究の対象は、大都市圏(東京、大阪、名古屋)ではない地方圏に在住する同性カップルであった。報告時点においては、ある近畿地方の農村部に移住したゲイカップルを事例とする研究が進行している。人口規模が小さく、人口の流動性も低い地方では、地域社会内での同棲や共同生活は非常に可視性が高く、移住者という属性も重なることによって、セクシュアリティに関する情報統制が当地人たちにとって難しいことが確認された。一方で、二人が「男性」であること、地域での共同作業が行えるほど「若年」であること、自治体のパートナーシップ制度を使用した「移住者」であることなど、ゲイであることが可視化されながらも、かれらに付属するほかの社会的属性も当該地域では重要な情報として取り扱われるため、周囲との関係では「ゲイ」であることだけが可視化するわけではないことが示された。一方、新たに制度導入がなされた自治体では、その地域住民が「移住者」と重ね合わせてゲイカップルなどの「同性カップル」を想定するため、この枠組みに則した形での受容が地域で生じた可能性もあることが考えられる。この結果は特定非営利活動法人 社会理論・動態研究所編『理論と動態』第17号に掲載予定である(受理決定2024年8月)。</p>
幹事会使用欄	